

計画書の構成例と検討スケジュール

項目	内容	検討スケジュール
はじめに		
第1章 現状及び課題 1 被災の状況 2 復興の課題	津波浸水による家屋、事業所、公共施設被災の状況。 今回の震災の他、関連するこれまでの課題も	6月～ 7月
第2章 基本方針 1 基本理念 2 復興の基本的な方針 3 復興の実現のために	(1)復興計画期間 (2)復旧にとどまらず復興へ (3)生活再建を最優先する復興 (1)住まいと暮らしの再建 (2)安全な地域づくり (3)産業・経済の復興 (4)浦戸地区の復興	6月～ 8月
第3章 基本構想(仮) 1 まちのビジョン 2 実現主体の役割 3 フレーム 4 土地利用 5 戦略プロジェクト		8月
第4章 基本計画		9月～ 11月
第5章 地区基本計画		
第6章 事業工程		
参考資料	バックデータ等	

(計画書構成 他市参考例)

項目	内容	備考
はじめに		
第1章 現状及び課題 被災の状況 復興の課題	津波浸水による家屋、事業所、公共施設被災の状況。 今回の震災の他、関連するこれまでの課題も	
第2章 復興の基本方針 再生の理念 実現主体の役割	自然と人間の関係、次代を先取りする思想。 失ってはいけないもの、新たに作りたいもの課題も。	
第3章 基本構想 まちのビジョン 実現主体の役割 経済社会のフレーム 土地利用 戦略プロジェクト	事業可能性を含めて大胆な構想も。交通、IT等。など。市民、企業が中心、隣接地域～世界の関係者との協働。 万人、 億円の復活、新しい尺度も。 防災性ある区分、暮らし、賑わい再生に向けた土地制度市民あげて取り組む食産業、住居、地域連携等。	
第4章 基本計画 基盤 (1) 津波対応 (2) 先駆的基盤 住まい (1) 住宅地 (2) 住宅 (3) 居住インフラ 産業 (1) 水産業 (2) 農業 (3) 工業 (4) 商業・サービス業 環境 (1) エネルギー (2) リサイクル (3) 自然、街並景観	防潮堤、堤防、道路、避難拠点、情報伝達誘導システム 中心市街地居住可能インフラ(交通、施設設備)。 安全な居住地、コミュニティ再生可能な構成。 被災者の暮らしの拠点となる住宅確保方策、公的支援 保健福祉医療、教育文化、交通等について。 生業型漁業経営者等。 作物利用転換、流域等連携農産物生産連携。 木材、飼料港湾流通関連企業の再生。 市民消費、観光等来訪者対応商品、サービスの展開。 原発による電力供給の展望と代替エネルギーの開発供給。 地域内発生物のリサイクル、IT等実現。 海浜～市街地～丘陵地、河川流域連携等。	
第5章 地区基本計画 地区 地区 地区	インフラ、土地利用規制誘導、宅地、拠点整備。数地区区分。 水産、観光等、浜の生業のあり方。 養殖、特産物等漁村の展望。	
第6章 事業工程 時期別 事業手法 事業費	復旧・再生・発展期の内容と時期調整 災害、都市開発、農水産業等への選定。 各事業毎の経費と負担区分。返済、維持費の検討。	
参考資料	バックデータ等	